

「いのちをまもる智慧」の展示に寄せて

災害が頻発しています。命の大切さ、人と人との絆を大切に生活していきたいものです。しかし、世の中を見ますと、ともしれば、人と人とのつながりは希薄になり、かけがえのない命が軽んじられているようにも思えます。そんな今こそ、災害に遭われた皆様に思いを馳せ、被災地で積み重ねられ、大切にされてきた教訓に耳を傾けるべきではないでしょうか。なお、災害から得られた様々な知恵を、あえて、「智慧」と書きました。教訓を単に「知」識にとどめるのではなく、それをこうした展示を通して、はっきりと「目」についていくことが、阪神・淡路大震災で被災したものの一人としての使命だと思うからです。

源美公秀

(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授、
上町台地からまちを考える会理事)

謝辞

この展示は、「いのちをまもる智慧 減災に挑む30の風景」の制作に関わられた全国のみならず、上町台地の災害史に関わる貴重な資料や情報をご提供くださった地域のみならず、ストーリーブックの設置にご協力くださっているみなさまほか、多くのご支援によって実現しているものです。心からお礼申し上げます。

協力(資料提供等):「いのちをまもる智慧」制作委員会(事務局:(特活)レスキューストックヤード)、上町台地からまちを考える会、歴典院、大阪城天守閣、大阪市立中央図書館、からほり倶楽部、炭茶上町1961、高津宮、恵(クーデリー・カフェ、books&scale LOW)、玉造稲荷神社、直木三十五記念館、(有)富士原文信堂、練、そのほかのみならず(50頁版)

U-CoRo独案内 (ゆーこーろ・ひとりあんない) vol.03

NEXT21/U-CoRo ウィンドウ・エキジビション 03
「いのちをまもる智慧」を伝える 減災に挑む30の風景と上町台地災害史
(2007.9.3~12.28)
大阪市天王寺区清水谷町6-16 NEXT21 1階北 U-CoRo

発行日 2007年9月3日
企画 U-CoRoプロジェクトワーキング(北瀬千尋/橋本真/早川厚志/弘本由香里)
監修 「いのちをまもる智慧」制作委員会(事務局:(特活)レスキューストックヤード)
編集協力 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
(源美公秀/関真真/菅野志保/花村周真)
発行 大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 (CEL)
大阪市中央区平野町4丁目1番2号
印刷 (株)国潮印刷出版研究所

この冊子、企画内容に関するお問合せ先 TEL:06-6205-3518(担当:弘本)
※NEXT21の3階以上は在戸フロアとなっておりますので、立ち入りはご遠慮ください。

表紙:「いのちをまもる智慧 減災に挑む30の風景」より
独案内(ひとりあんない)＝まちや物事に不案内な人を助ける携帯便利な冊子のこと



この冊子は環境に優しい再生紙製パルプ60%及び無毒漂白パルプ40%を使用しています

ゆーこーろ・ひとりあんない

U-CoRo独案内

vol.03

NEXT21/U-CoRo ウィンドウ・エキジビション 03

「いのちをまもる智慧」を伝える
減災に挑む30の風景と上町台地災害史
2007.9.3 Mon—12.28 Fri



U
CORO

ごあいさつ

近未来の住まいと暮らしを探求する、大阪ガス実験集合住宅NEXT21。エネルギー・環境に関わる実験に加え、今春からまちと暮らしをつなぐ小さな試みを始めました。1階に設けた「U-CoRo(ゆーころ)」の窓をインターフェイスに、上町台地につながり、豊かな暮らしを育むきっかけづくりとしての、ウィンドウ・エキジビションです。第1弾では「上町台地まつり絵巻」を、第2弾では「上町台地 子どもと遊びま・むかし」をテーマにディスプレイを展開してまいりました。

続く第3弾が「いのちをまもる智恵」を伝える 減災に挑む30の風景と上町台地災害史です。全国の被災地に蓄積されている「いのちをまもる智恵」を丹念に集め、紡ぎ上げたストーリーブック「いのちをまもる智恵 減災に挑む30の風景」。そこに描かれた風景と智恵の紹介を中心に、上町台地災害史も振り返る展示です。ひとりひとりの「いのち」と暮らしと地域の関係を見つめ直す契機としていただければ幸いです。なお、この冊子は、展示内容の一部を再編集してご紹介しているものです。暮らしの折節でご活用ください。

主催：大阪ガス エネルギー・文化研究所(CEL)

共催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

企画：U-CoRoプロジェクト・ワーキング

監修：「いのちをまもる智恵」制作委員会(事務局：(特活)レスキューストックヤード)

大阪・上町台地の災害史を記録した参考文献と、減災のための地域防災関連情報など

●大阪・上町台地の災害史

「暴風水害状況写真帖」大阪府編(1934)
「大阪市風水害誌」大阪市編(1935)
「大阪市の歴史」大阪市史編纂書編(創元社 1999)
「大阪春秋 創刊号 大阪の災害いまむかし」(大阪春秋社 1973)
「大阪春秋82号 災害と復興」(大阪春秋社 1996) など

●上町台地の防災関連情報

・中央区の防災・防犯情報(防災マップ等にリンク)
<http://www.city.osaka.jp/chuo/life/bosai/index.html>
・天王寺区の防災・防犯情報(防災マップ等にリンク)
<http://www.city.osaka.jp/tennoji/theme/bosai/index.html> など

●大阪市の防災関連情報

・大阪市危機管理室の防災情報(日頃からの備え、風水害に備えて、地震に備えてなど)
<http://www.city.osaka.jp/kikikanrishitsu/bosai/index.html>
※「避難所など」あなたの「地域の防災マップ(防災活動拠点情報)」、「「水害に備えて」防災マップ(浸水想定区域図)」、「災害想定(震度分布・浸水予測)」など
・大阪市都市環境局降雨情報(降雨状況、注意報・警報等の発令状況などを提供)
<http://www.city.osaka.jp/ame/>
・防災・救急 いざというときには(119番の利用方法、救急医療サービスなど)
<http://www.city.osaka.jp/emergency/disasters/index.html>
・大阪市立阿倍野防災センターでの災害体験学習情報
<http://www.abeno-bosai-c.city.osaka.jp/bosai/bsw/a/a/bswaa010.aspx>
・住宅の耐震診断・耐震改修費の助成情報
<http://www.sumai.city.osaka.jp/subpage.php?p=8683> など

大阪と上町台地の災害

水の都大阪は、古くから洪水や津波による被害を受け、火事や地震などの災害にも見舞われてきました。

なかでも、幕末の安政元年には、大地震が二日のうちに連続して発生し、二度目の地震の後には山のような大津波が市街に押し寄せました。戸外に遊樂していた多くの人々が大波にのまれたのです。

周辺より高い位置にある上町台地でも、近年に至るまでに何度も台風の影響や集中豪雨などの風水害にあい、時には甚大な被害を受けています。また、住居や商家が密集する大阪市街は度々大火に見舞われて、その数は数度となく台地の上にも燃え広がりました。

こうした災害は決して昔の話ではありません。大阪平野を南北に貫く上町新橋が地震を引き起こした場合、そのマグニチュードは7.8にもなると推定されています。過去の事例から得るべき教訓は、まだまだ残されているのです。

※資料 この欄、上町新橋が動いた可能性

- 686 1月:大蔵省の失火により蔵書宮全焼
- 1361 6月:五重に大地震(四天王寺金堂倒壊)
- 1562 1月:大坂本願寺大火、寺中2,000軒焼失
- 1580 8月:石山合戦の和給後、本願寺は失火により焼失
- 1615 5月:大坂夏の陣にて、大坂城炎上
- 1724 3月:大坂大火(妙知焼、市街の2/3、12,205軒が焼失)
- 1757 9月:安堂寺橋付近より出火し、谷町まで焼く
- 1783 12月:内平野町で出火(1,500軒焼失)
- 1789 12月:南本町より出火(寛政の大火、上町まで57町を焼失)
- 1852 12月:上町で大火(築港堀川から谷町まで焼失)
- 1863 11月:大坂大火(新町焼、市街の2割焼失、玉造稲荷神社も焼滅)
- 1868 1月:大坂城焼亡 5月:淀川大洪水
- 1884 1月:内本町で大火(曲焼、火は松屋町を越える)
- 1912 1月:高の大火(難波新地一帯が焼け、4,576戸焼失、生國魂神社も焼滅)
- 1934 9月:室戸台風襲来(四天王寺堂塔や木造校舎など多数倒壊、死者1,812名)
- 1950 9月:ジェーン台風襲来(生國魂神社本殿倒壊)

室戸台風 の記憶

昭和9(1934)年9月21日、猛烈に強い台風が近畿を縦断、朝には大阪市付近を通過し、死者・行方不明者3,036名、負傷者14,994名、倒壊家屋92,740棟、浸水家屋401,157棟、被害船舶数27,594隻という大被害が生じました。最大瞬間風速61m/秒、毛森の由来となった室戸岬付近への上陸時気圧911.6hpaは最低圧記録(気象庁の統計開始前)となっています。

上町台地でも四天王寺の五重塔が倒壊するなど強風による被害が甚大で、なかでも木造校舎の倒壊が相次ぎ、市内の小学校だけで児童の死者251人、負傷者278人、教職員の死者10人に達しました。ラジオは普及していましたが気象情報は少なく、登校する子どもが多かったことが被害を拡大しました。

室戸台風を契機に、気象情報伝達や強風に対する建築基準法改正など対策が拡充されました。大阪城公園内には亡くなった児童や教職員を慰霊する教育塔が昭和11年に建立されています。また、当時の記録や関連資料なども多数出版されています。

室戸台風直撃された五条小学校での記憶
宙を飛ぶ屋根瓦、アッという間の校舎倒壊
O・Sさん(天王寺区真法院町在住、80歳代)

確か前日から雨は降っていましたが、9月21日の朝は雨風ともあまり強くありませんでした。ラジオはありませんでしたが、当時のように台風情報が頻りに流れることはなく、台風が近づいているという話を聞いた覚えもありません。そのため、普段通りに五条小学校へ向かいました。

私は当時6年生で、高学年の教室は鉄筋校舎内だったため、風の音などはあまり気になりませんでした。ですが、授業が始まってすぐに、何気なく窓の外を見ると黒いものがいくつもスーッと宙を飛んでいくのが見えました。『ガラスがたたくさん、風に流されているのかな』と思いましたが、実はそれは強風で飛ばされていく家々の屋根瓦だったのです。

授業の途中で下校することになり、鉄筋校舎を出たときにはそこにあるはずの木造校舎が倒壊していました。なかには低学年の教室が入っていたのですが、あとで7名の児童と遊べた人など2名が亡くなったと聞きました。どうも風がきつくなったために下校がはじまり、その後倒壊したようです。普通ならすごい音がしていたはずなのですが、子ども心にも恐ろしい出来事であったためか、壊れる音などはまったく覚えていません。ただ、帰り道ではほとんどの家の窓ガラスが割れていたことを覚えています。

